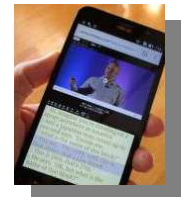
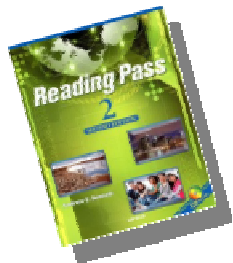


教科書をウェブ化して, CALL とスマホ で利用する ブレンド型語学授業研究

-- ウェブ・プレイヤー Talkies による

4 技能対応総合英語 --

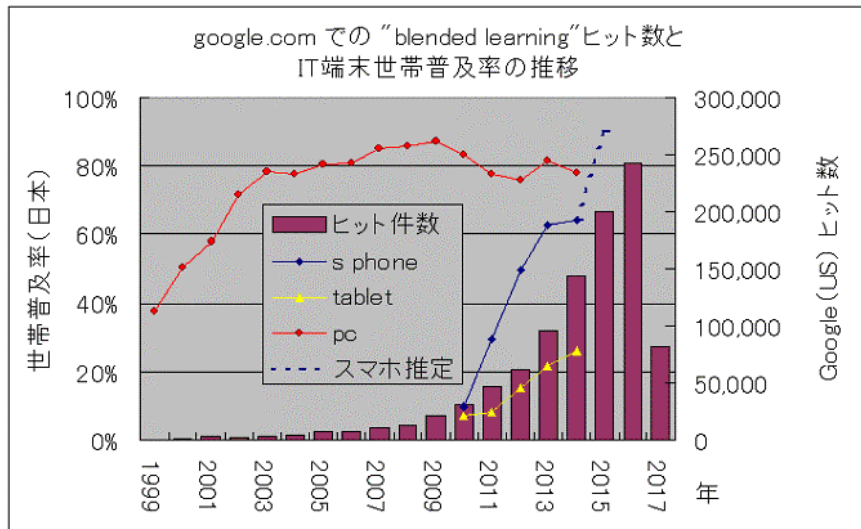


ミント音声教育研究所 田淵龍二

言語教育エキスポ 2017

今日の主題：

円熟期に入った e ラーニングに対応した 円滑な学習サイクルの構築



ウェブ教科書による ブレンド型授業で 円滑な学習サイクル



主題に入る前に： 授業(学習)の基礎知識 + α

学習の三項関係



田淵 龍二(2008)を改編

学習の目的

こと = こと
教える人 教わる人

実際の学習

こと \neq こと こと こと



+ α ウェブ教科書例: Talkies / library / [3] 南雲堂 Reading Pass 2

1 ブレンド型授業を再定義する試み

1-1. Graham, Allen, & Ure (2003) によるまとめ (Graham, 2004)

blended learning (BL)=

1) combining instructional

modalities (or delivery media)

(Bersin & Associates, 2003; Orey, 2002a, 2002b; Singh & Reed, 2001; Thomson, 2002)

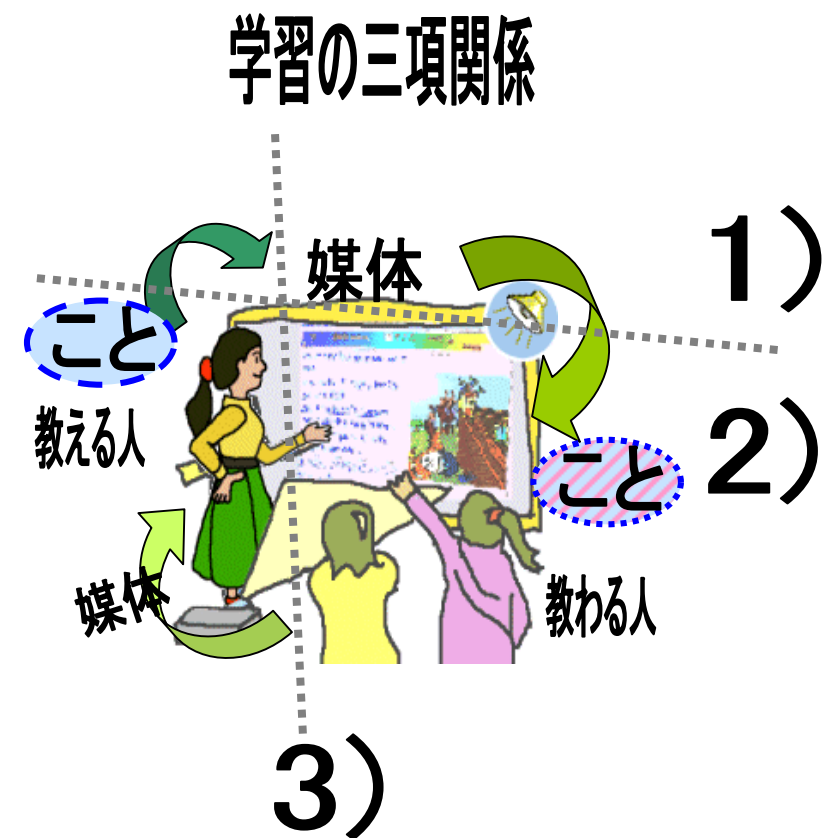
2) combining instructional

methods (Driscoll, 2002; House, 2002; Rossett, 2002)

3) combining online and

face-to-face instruction (Reay, 2001;

Rooney, 2003; Sands, 2002; Ward & LaBranche, 2003; Young, 2002)



1-2. ある学校での Blended Learning (2011)



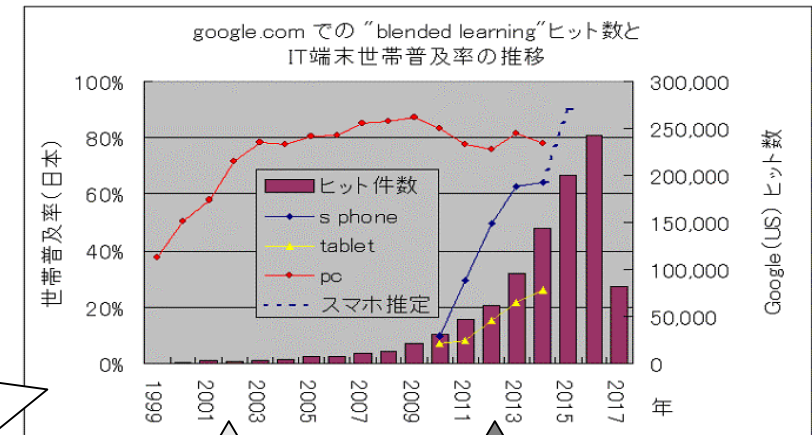
retrieved from:

The Basics of Blended Learning (YouTube 2011) .pdf

<https://www.youtube.com/watch?v=3xMqJmMcME0>

1-3. Staker & Horn, (2012 要約)

△ 2002～2004 年当時は PC の普及が一段落し、CALL 導入が本格化し始めたころにあたる。ウェブの通信回線は細く遅い状態で、スマホやタブレットが普及するはるか以前のことである。



- (1) through [online](#) learning
- (2) in a supervised [brick-and-mortar](#) location
- (3) the modalities along each student's learning path within a [course or subject](#)

▲ 2012～2016 年は通信回線が広域高速化し、スマホが普及するなど、blended learning が社会に浸透していく時期にあたる。

1-4. ブレンド型授業を再定義する試み

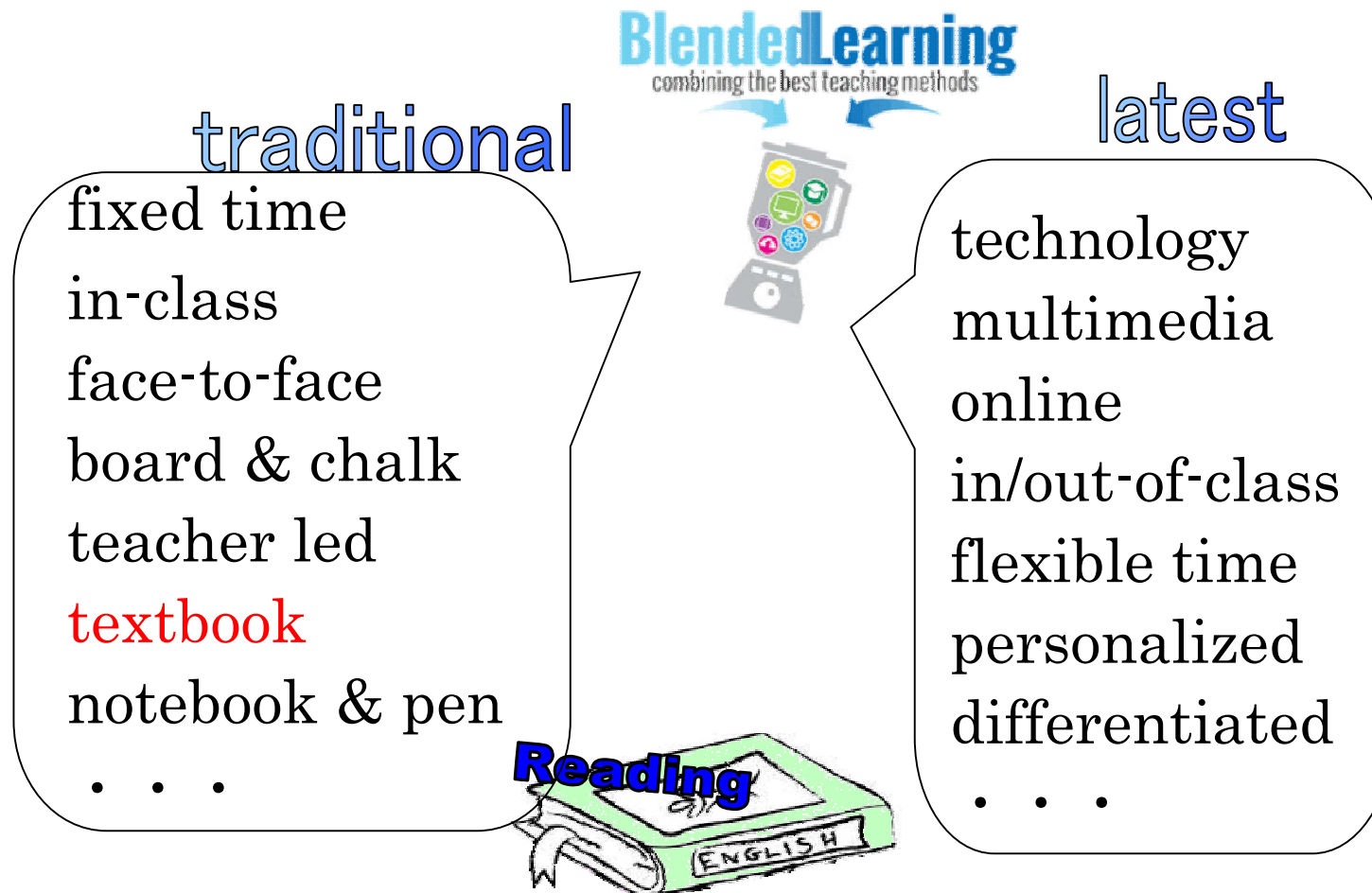
先生・生徒・教材・環境から構成され，以下の構造を持つ。

- a) **form** 時間は授業内（集団）か授業外（個人）。
- b) **driver** 運転者（主導者）は先生か生徒。
- c) **content** 教材は教科書（主教材）か副教材。
- d) **media** 素材は現物（real）か仮想（e ラーニング）。
- e) **device** ネット（ICT，さらにはスマホ）対応か。



2 ブレンド型授業の質を問い直す

2-1. 何がブレンドされているのか？



blended learning

- a) form
- b) driver
- c) content
- d) media
- e) device



2-2. ブレンド型授業の典型例



反転授業
自律学習

result
score
working time
discussion
feedback



drill
training
study
search
watch

>> 問われるのは授業の一貫性

3 ブレンド型授業の原点にもどる

3-1. 江戸時代からの民衆レベルにおける大衆教育の成功事例

寺子屋・手習所 / 藩校

読み書き算盤



英国挿絵画家による

算盤



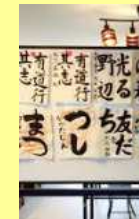
① 一斉指導 ② 読上げ算 ③ 見取り算



習字



① 課題提示 ② 筆写 ③ 添削指導 ④ 展示



剣道



① 素振り ② 切り替えし ③ 打ち返し ④ 乱取り



blended learning

- a) form
- b) driver
- c) content
- d) media
- e) device

3-2. blended learning の核になるもの

何をどう混ぜるか？ の前提としての

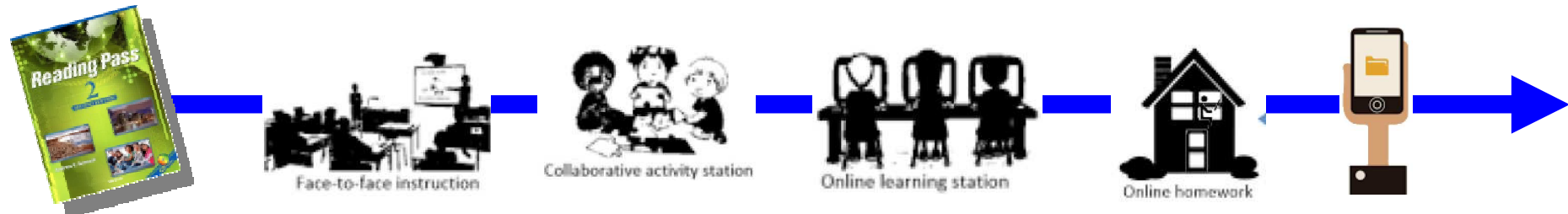
学習内容の一貫性

content



解決法

- (1) まず、教科書をウェブ化する。
- (2) その上で、混合を最適化する。



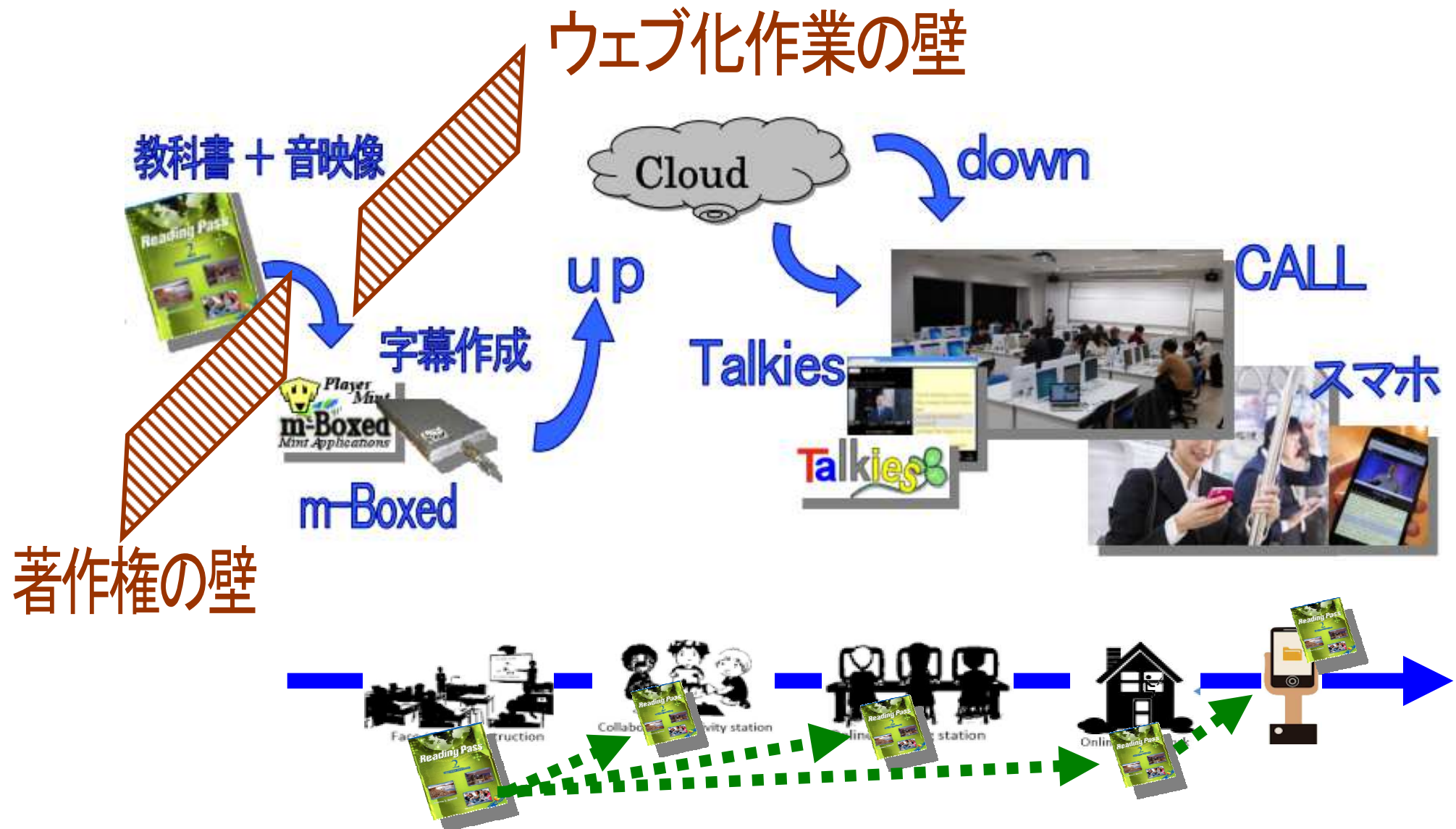
blend

4 ウェブ教科書による総合的英語授業

4-1. ブレンド型授業 学習サイクル



4-2. ウェブ教科書の仕組み



5 教科書ウェブ化のためのガイドライン

ウェブ化と著作権上の諸問題を解決するため、出版社の協力を得て、ガイドラインを作成し、利用可能な教科書の準備が整った出版社と研究授業を開始した。

ガイドラインはウェブ公開中

http://mintap.kir.jp/public/news/pic/bl3_gl_20170106.pdf

教材のウェブ利用のためのガイドライン

ミント音声教育研究所 田淵龍二

2016年12月21日（水）

趣旨

このガイドラインは、音映像付き紙版教材をウェブ化し、Talkies で授業利用する場合に、出版社、Talkies 運営者、授業運営者の作業指針と遵守すべき規約についての取り決めである。

目的

社会の IT 化に対応した先端的な教育手法を、産学（出版+ネット+教師）連携により、いち早く学校現場に取り入れて、時代に即した語学教育を実現し、もって、社会と文化の発展に寄与することを目的とする。

方法

授業を運営する教師が、クラス授業や生徒の自主学習において利用する目的で、クラス授業で利用する教材（音映像付き紙版書籍等）をウェブ化し、インターネット上の Talkies でアクセス可能な状態に配置する。

呼称

上記方法による学習全般を単に「ウェブ授業」と呼び、ウェブ授業で使う音映像付き紙版書籍の電子化したものを「ウェブ教材」と呼ぶ。またこのシステムに関わる出版社、Talkies 運営者、授業運営者、履修者（生徒）をまとめて「関係者」と呼ぶ。

制限

- (A) ウェブ授業においては、関係者すべてが、お互いの人格的尊厳と経済的利益を尊重し、相互利益と有益性の増大に協力し、それを害する行為を行わないこと。
- (B) ウェブ教材の紙版書籍は、クラス受講者全員が購入すること。
- (C) ウェブ教材へのアクセスには専用のアクセスキーを利用すること。
- (D) 授業期間（学期あるいは年度）が終了後は、上記アクセスキーは無効にすること。
- (E) アクセスキーは、関係者以外に開示しないこと。教師は生徒にその指導をすること。

協力

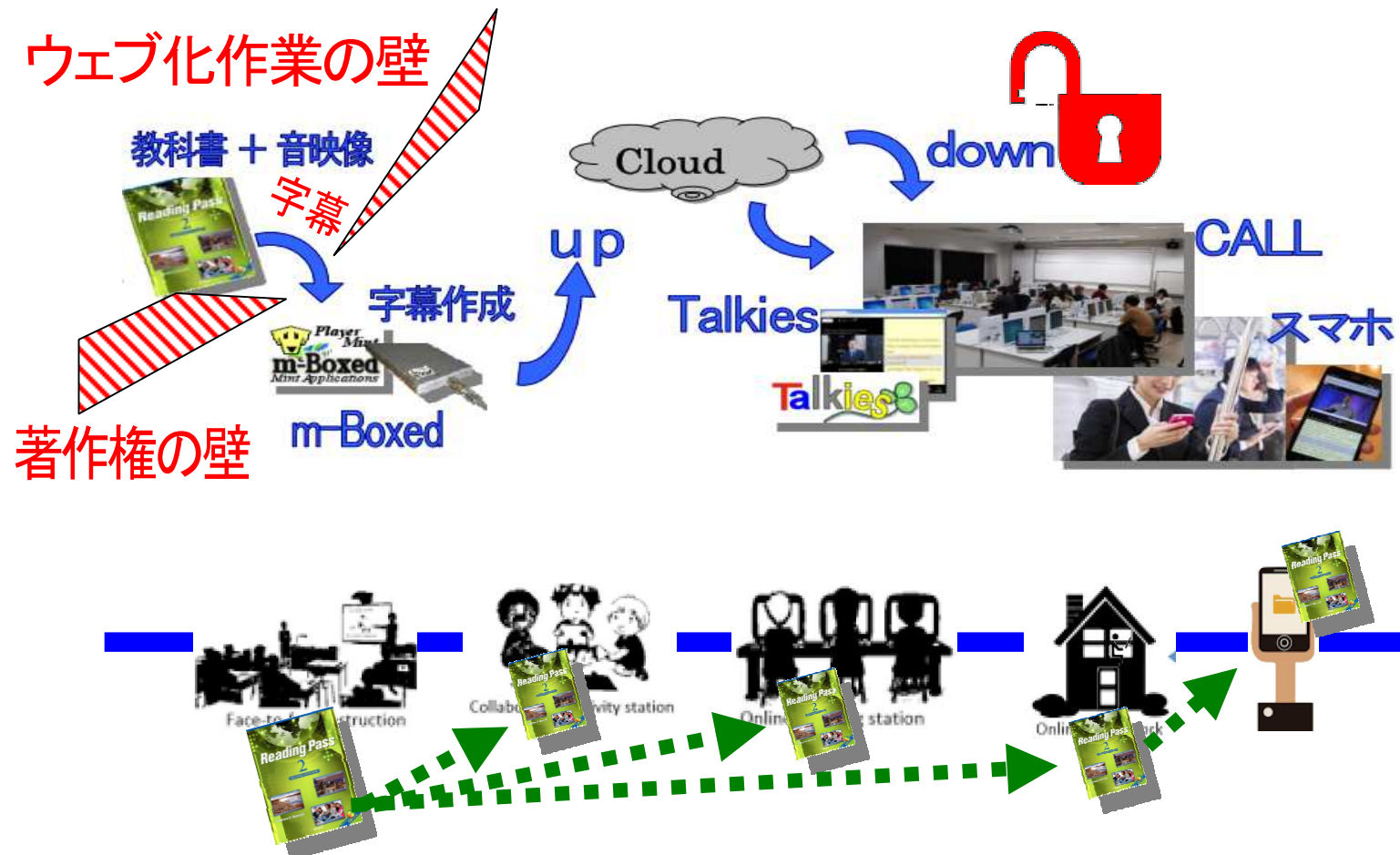
- (F) 出版社はウェブ教材製作を支援するため、デジタル資料を可能な限り提供すること。
- (G) Talkies 運営者はウェブ教材製作をサポートすること。
- (H) 研究発表や授業報告を行い、ウェブ授業を広めるために関係者が協力すること。
- (I) 関係者間の協力は、無償とすること。また、有償の協力を依頼しないこと。

細則

- (J) 同じ書籍教材を利用する教師間での、ウェブ教材の共有を可能にすることが望ましい。
- 以上

ガイドライン概要

- (a) 出版社は日英字幕向けデジタル資料を提供する。
- (b) ウェブはアクセスキーで保護する。



6 ウェブ授業共同研究者を募集中

blended learning のこれからの課題

(1) ぶれない軸を貫く < 主教材としての教科書ウェブ化

この4月からウェブ教科書として利用可能な7冊を準備

「Reading Pass」シリーズ3冊（南雲堂）

「Readers' Forum,」シリーズ4冊（南雲堂）

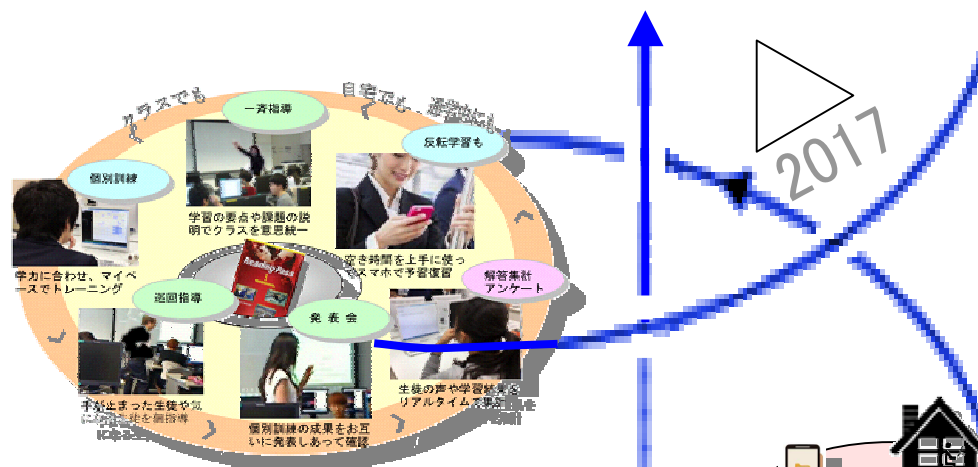


(2) その上で、一斉授業・個別学習・スマホ利用、反転学習などをどう組み合わせると 最大の効果が発揮できるか？

< 研究授業を開始・共同研究者を募集中

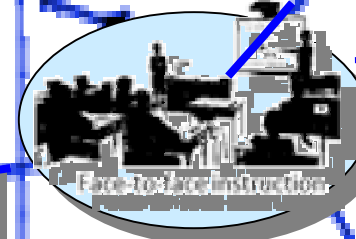
この研究は、外国語教育メディア学会 (LET) 関東支部研究支援プログラム「教科書添付音声付教材をウェブ化した CALL 教材による教授法研究」の一環として行われています。

7 まとめ

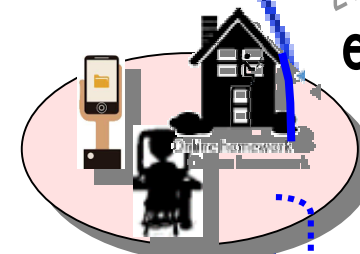


止揚
アウフヘーベン

江戸時代
寺子屋・手習所



明治～
クラス授業
命題
テーゼ



反命題
アンチテーゼ

blended

ご清聴 ありがとうございました
アンケート / プレゼン原稿. pdf



tabuchiryuji@nifty.ne.jp

ミント音声教育研究所

田淵龍二